

大学の教育・研究・社会貢献に 新しいモデルは生まれうるか？

～COVID-19の経験を踏まえてAI化・ロボット化した世界の担い手を構想する～

2020年度、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、新学期の授業運営は、所属元の組織的判断に基づきつつ教員個々が手探りで工夫を重ねることにより、開講準備が進められた。その端緒は、2万人を超えるメンバーが参加したFacebookグループ「新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ」（10月9日に「新型コロナ休講で、大学教員は何をすべきかについて知恵と情報を共有するグループ」から名称変更）で確認できる。

そこで本シンポジウムでは、COVID-19の経験をもとに、人口減少社会・グローバル化、そしてVUCAの時代の大学の存在と役割について探究する。コロナ禍から1年、SNSを通じた集合知はいかに働いたかを確認しつつ、大学における、あるいは大学のための新しいリテラシーを探究する機会としたい。

シンポジスト



岡本 仁宏氏 関西学院大学 法学部 教授

経歴

1955年生まれ。西洋政治思想史の概念史研究から阪神淡路大震災を機にNPO等非営利社会活動研究に専門を広げ、「市民社会」をキーワードに二足の草鞋で研究中。京都大学法学部卒、名古屋大学法学研究科博士後期課程単位取得退学、滋賀大学専任講師を経て現職。この間、客員研究員としてYale大学・Westminster大学・Washington大学に滞在。

主な活動、著書

（社福）大阪ボランティア協会ボランティアリズム研究所所長、（公財）公益法人協会顧問。前日本NPO学会会長、前大阪府公益認定等委員会委員長等。『現代日本の市民社会』（共著）法律文化社、2019、『市民社会論』（共著）法律文化社、2017、編著『市民社会セクターの可能性』関西学院大学出版会、2015、編著『新しい政治主体像を求めて』法政大学出版局、2014等。



杉森 公一氏 金沢大学 国際基幹教育院 高等教育開発・支援部門 准教授

経歴

1998年富山県立砺波高等学校普通科卒業。2002年筑波大学第一学群自然科学類卒業。2004年筑波大学大学院修士課程教育研究科教科教育専攻修了。2007年金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。2007年金城大学研究員。2010年金城大学医療健康学部助手。2011年同助教。2013年金沢大学大学教育開発・支援センター准教授。2018年タフツ大学Center for Enhancement of Teaching and Learning 客員研究員。2016年より現職。専門は計算量子化学、理科教育および大学教育開発。修士（教育学）、博士（理学）。

主な活動、著書

共訳に『ROBOT-PROOF: AI時代の大学教育』、共著に『基礎から学ぶ統計解析』など。

コーディネーター



山口 洋典氏 立命館大学 共通教育推進機構 教授

経歴

1975年静岡県磐田市生まれ。専門は社会心理学、特にグループ・ダイナミックス。ネットワーク型まちづくり、災害復興、サービス・ラーニングなどをテーマにアクションリサーチを展開する。財団法人大学コンソーシアム京都事務局研究主幹、浄土宗應典院主幹、同志社大学院総合政策科学研究科助教授・准教授を経て2011年度より立命館大学共通教育推進機構准教授、2020年度より現職。2017年にデンマーク・オールボー大学で参加型学習を比較研究。

主な活動、著書

著書に『ソーシャル・イノベーションが拓く世界』（法律文化社、共著）『はじめてのファシリテーション』（昭和堂、共著）など。2019年度より立命館SDGs推進本部事務局長。

シンポジウムにお申込みいただいた方には、事前公開資料のダウンロード方法及びZoomウェビナーへの入室方法をご案内いたします。

【注意事項】

- シンポジウムは事前申込制です。
- 事前公開資料はシンポジウム申込者にのみ公開しますので、他者への転送・共有等はお控えください。厳守をお願いいたします。
- 参加者ご自身での録画・撮影・録音はご遠慮ください。